



Change! 2022 ニュース No.7 新春特大号

Change! 2022 推進委員会 2020. 1. 15 発行

▼ 会員増強に思う

「高める質に 伴う1246!!」

東日本区理事 山田 敏明 (十勝)



輝かしい 2020 年も明け、東日本区理事としてのあと半期間に、今回の EMC シンポジウムが企画開催されます事を大変力強く思います。

振り返れば、入会して 36 年が過ぎ、たくさんのワイズの先輩方から様々な

指導やアドバイスを受け、また、たくさんの仲間から原動力を貰い、いつも前向きに活動をさせて頂いています。

23 歳で現地参加した第 56 回国際大会 (USA・ミシガン州グランドラピッツ) では、竹内敏朗国際会長からは貴重な金言を頂き、露崎御夫妻 (東京) からワイズのすばらしさを教えられ、また藤原重信ワイズ (大阪西) からワイズの楽しさを知らされました。また、カナダ牧場実習中は、「ワイズ 50 年史」を何度も読み、歴史や知識を得る機会が得られました。

帰国後は、すぐクラブ会長を任命され、森田恵三理事 (京都ウエスト) と、岡本尚男理事 (京都キャピタル) から、ワイズの将来と EMC の重要性を説かれる中で、ワイズの魅力を知ることが出来、両氏のようなワイズになる事が目標となり、今日に至りました。

日本区時代に北海道部長を経験した際は、ワイズの会員増強と活性化の為、東西分割する議論が盛んになり、『日本区 6000』を宣言し、「高まる質に伴う 6000!」をキャッチフレーズに、邁進しました。

東西日本区になって 23 年が経過し、デジタル化、AI、IoT など、世の中の価値観は変わってきました

が、ワイズの例会やボランティアで得られる温かさは変わりません。今こそ東西分割した頃の高揚感を思い出して、会員増強をし、ワイズのすばらしさを伝えていかなければなりません。

基本は、楽しくて素晴らしい例会を行い、ワイズに興味のある方に、ワイズの魅力を知ってもらうことです。その中で、ワイズの最大の特長である YMCA と共に歩むことをもっと掲げましょう。

過去の日本区定款の第 3 条第 5 項には、一業種二会員制が謳われていましたが、時代と共にメンバーがシルバー化され、東日本区定款からは除かれています。求められる多様性は変わりますが、友情あるメンバーシップと、YMCA を通して地域社会へ奉仕するあり方を常に語り合いたいと思います。

私たちは、いつも自信をもって、クラブ活動を行っています。「高める質に 伴う 1246!!」を掛け言葉に、Change! 2022 推進委員会と進みましょう。

◀ 山田敏明理事のプロフィール ▶

- 1961 年 4 月 21 日 生まれ 現在 58 歳
- 1981 年 1 月 北海道 YMCA 帯広ブランチボランティアリーダー入会
- 1983 年 10 月 十勝クラブ入会
- 1984 年 4 月 カナダ牧場実習 7 月第 56 回国際大会参加
- 1986 年 3 月 帰国 就農
- 1989 年 7 月 十勝クラブ会長 (以降通算 7 回会長経験)
- 1993 年 7 月 北海道部部长
- 1999 年 9 月 第 18 回アジア地域大会 HCC 事務局長
- 2008 年 7 月 東日本区地域奉仕事業主任
- 2013 年 7 月 東日本区書記
- 2019 年 7 月 東日本区理事
第 28 回アジア太平洋地域大会 HCC 実行委員長

▼ 2022 年に向けての国際協会の取り組み

▽ 「ビジョン 2022」、「2022 とその先に向けて」 そして「チャレンジ 22」▽



アジア太平洋地域会長/国際議員
田中 博之 (東京多摩みなみ)

1922 年 11 月 22 日、ワイズメンズクラブ国際協会(以下「国際協会」)が誕生しました。約 97 年前、米国・ニュージャージー州アトランティックシティにて 17 クラブ、

65 名の参加により第 1 回国際大会が開催され、この日、国際協会が正式に発足したのです。

<ビジョン 2022> (Vision 2022)

2022 年に創立 100 周年を迎えるに当たって、国際協会では、私たちの組織がより発展し、強固なものとなるために、2008 年に以下の「ビジョン 2022」を定め、2022 年には、こういう組織となっているという、全世界のクラブ、会員が共通して目指す姿を示しました。

「私たちが生きる世界をより良くするために、『強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う』をモットーに掲げながら、積極的な奉仕と YMCA、国際連合、その他の相応しい組織との緊密な協力関係に務め、人としての価値を高めることに努力する、強力で献身的なメンバーによって、若者の成長に特に焦点を置きつつ、社会に認められ、常にグローバルな視点を持って活動する自発的奉仕組織となること」

<2022 年とその先に向けて> (Towards 2022 and Beyond)

続いて、2010 年には、この「ビジョン 2022」を実現させるためのより具体的な目標として、「2022 年に向けて」(現在は「2022 年とその先に向けて」に名称変更)が制定されました。

1. 国際協会のメンバーを最低 100 か国 50,000 名に増やす。
2. 以下により、国際協会を世界的なレベルで強化する：
 - ・ YMCA と地域社会に対して適切なサービスを提供する
 - ・ 私たちの社会的イメージを高める
 - ・ ワイズメンズクラブ国際協会およびその使命に対してのメンバーの認識を向上させる。

<チャレンジ 22> (Challenge 22)

2019 年 4 月、「2022 年とその先に向けて」で定めら

れた目標を達成するための実施計画である「チャレンジ 22」が発表され、国際会長/国際書記長から全世界のクラブ会長に発信されました。計画は、具体的に 7 つのチャレンジ(取り組み課題)を挙げ、それぞれの課題に国際本部、各区、各クラブなどがどのように対応すべきかが示されています。ご協力をよろしくお願いいたします。

1. 認識を変える

国際本部と各メンバー間のよりタイムリー、緊密なコミュニケーションを図り、活発な意見交換を行う。

2. ブランドイメージの強化

アイデンティティを大切にし、国際協会ウェブサイトを外部へのアピール、新規会員獲得に資するものにする。

3. 遺産と共通のインパクト

創始者である P.W.アレキサンダーを顕彰し、また伝統を受け継ぎ、発展させるためのプロジェクトを実施し、そのための献金を募る。また、各クラブの優れた活動を取り纏める。

4. YMCA との連携強化

各レベルでの「パートナーシップ覚書」締結を推進したり、両方の組織のメンバーである会員を増やしたりする。

5. 100 か国にワイズを

ターゲットとする現在ワイズがない 36 か国を選定し、クラブ設立活動を国際本部が支援する。

6. 3,000 クラブ

全ての区にエクステンションチームを設置し、また全てのクラブが新しいクラブの設立に挑戦する。

7. 50,000 名の会員

全てのメンバーが友人・知人ひとりを会員にすることに挑戦する。

以下の国際協会ウェブサイト(日本語)に、より詳細な説明が掲載されています。文章中の青いボタンを押すとパワポが表示されます。ぜひご覧ください。

<https://drive.google.com/file/d/1pJplk9u8UMPCc1kNuPX8aZb6y4VavTgk/view>

< 田中博之さんのプロフィール >

2000 年	東京クラブ入会
2003-2004 年	東京クラブ会長
2004-2005 年	東日本区国際・交流事業主任
2005-2007 年	東日本区 LT 委員長
2007-2008 年	東新部部長、アジア地域会計
2009-2013 年	東日本区 IT アドバイザー
2010-2011 年	東日本区書記、国際 IBC 事業主任
2014-2015 年	東日本区理事
2016 年	東京多摩みなみクラブに移籍
2018-2020 年	アジア太平洋地域会長、国際議員

▼ 各部 会員増強事業主査より

会員増強と退会防止について

北海道部主査 じゅうどう ゆきえ 重堂 幸恵 (十勝)



ワイズメンズクラブに入会して早7年、途中休会したり、正直気が乗らない時期もありました。初めは保護者としてYMCAに関わり、その後2008年から保育士として、とち帯広YMCAに勤務し、YMCAを辞

める時に当時YMCAの園長だった池田正勝先生と十勝クラブの会長であった現東日本区のエアイ(エロイ??)理事山田敏明氏の「美味しいお酒が飲めるぞ」との甘い言葉に誘われて活動内容を良く理解しないまま入会しました。

数年は役員会、例会にもお客さんのような気持ちで出席していましたが、段々年数が経つとともにクラブの役員に指名されるようになり、昨期はクラブ副会長、今期は北海道部の会員増強事業主査を受けました。来年度は十勝クラブの会長の予定ですが、まだまだわからないことも多く、不安でいっぱいです。今年一年は現十勝クラブ会長の池田先生に付いて学んでいるところです。分からないことは何でも、先輩会員さんに聞いていますので、これからも頼りにしています。このように十勝クラブの先輩会員さんは、私の様な者でも温かく見守り助言してくれます。

さて、今までは十勝管内のみで活動していましたが、下の娘が大学に進学し、自由な時間が出来ることもあり、外に行く機会も増えました。恥ずかしい話ですが、今まではまともにロースターも見ることありませんでしたが、現在は、EMC? DBC? っ て何? という具合に辞書を引くがごとく開いては探し、付箋を付けている日々です。

そんな素人の様な私が先日初めて会議に出席した時に、用意した資料の部数が全然足りず、急いでコピーさせてもらい、皆さんにお配りしました。先輩会員様、役員の方々はこれが当然のことでしょうが、正直自分は場違いの所に来てしまったと思った瞬間でした。この様なことは経験して学ぶしかないので、出来れば事前に説明を頂けると嬉しかったです。聞けば良いのと思われるかも知れませんが、初めての事では何を聞いて良いかも分からないものです。役員の方々も、もちろん新人時代もあつ

たと思います。その頃を思い出して、温かい気持ちで助言して頂ければ幸いです。

会員の中には、まだまだ私の様な方もいると思います。知人を誘うにしても、ワイズのことや役員の役割等丁寧に説明し理解してもらうことが、次の会員増強や退会者の歯止めになるのではないのでしょうか? 俗に言うアフターフォローを丁寧にしていくべきだと思います。入会して楽しいのは当然ですが、楽しいだけでは継続は難しいと思います。毎月楽しい例会を催し、人との繋がり、思いやりを大事にしていきたいと思っています。

会員増強の具体的な例

北東部主査 山田 公平 (宇都宮)



ノルウェーのマンデルクラブは、世界最大のワイズ、会員数133人という。ノルウェーのRDEでもあるヤン(Jan)さんは、人口7千人の集落に住み、40年前のYMCAユースクラブメンバーOB・OGを集めてワイズ復活を図る。2014年に50人でチャーターし、個人的に元YMCAユースクラブのメンバーだった人々を招待して徐々に増員。玄関で役員が一人一人に声をかけて迎える。招待された人たちが歓迎されていることを感じてもらうように。

男女半々、月1回集まり、時には旅行やイベントを共にする。毎月80~90人が参加し、多い時には150人以上になることも。毎回、手作り料理を一人5ドルで提供。「変わっていかねば…」をテーマに、様々な話し手を招待して有意義な時間となる。

クラブは楽しいところ、フェロウシップを大切にしている。例会では堅いセレモニーもしない。ローカルコミュニティとつながることが大切。地元でセカンドハンドショップを運営している人が入り、一緒に移民家族たちへのサービスをしている。集めたお金は、YMCAや教会に寄付。年間1万ドル(約110万円)になる。

さて、宇都宮ワイズでこのようなことができるのか? 印象は、安い、仲間意識の基盤があること。

そういえば、YMCAにも元リーダーOB・OGがいる。「変わっていかねば」という発想と実行力が必要。北東部の各クラブがどう変わっていくのか、真剣に考えていきませんか?

▼ 各部 エクステンション委員長より

東新部でのクラブ拡張(E)の取り組み報告

東新部E委員長 太田 勝人(東京町田スマイリング)



昨年11月30日(土)17:00～21:00まで、新宿西早稲田にある「早稲田教会における“オレオス会”(ギリシャ語で良い会、goodな会を意味するそうです)の12月例会に参加してきました。東日本区で“Change! 2022”を推進している伊丹一之ワイズ

が同会に入っていて、その紹介で“(仮)新宿地域ワイズメンズクラブ”を設立したい強い思いをアピールして参りました。

新クラブ「東京町田スマイリングクラブ」設立の時に使用したチラシを参加者21名(内女性は4名)プラス早稲田教会の古賀牧師も入れて22名に、①ワイズメンズクラブは何を目的にしているか、②YMCAの説明をアピールさせていただきました。

また、東京世田谷クラブが17年にわたる「歌の会～すずらん会」が行ってきた内容を6分にまとめ、その内容をUSBに収めて持っているので、次回ブレゼさせてください、と話しました。

オレオス会の皆さんは、本当に音楽がお好きのようで、私のアピールにも耳を傾けていただき、反応が良かったと感じております。

この日の幹事さんからは、3月7日に教会でコンサートがあるのでご参加ください、とのお誘いも受けて、最初の出会いとしては良い感触を得ました。

また、コンサート参加以外にも伊丹ワイズのアドバースもあり、月例例会にも参加してワイズメンの良さを理解してもらえよう全力を尽くします。

次の段階に来たら、東新部EMC事業主査や部長も巻き込んで、複数の幹部にて「新宿に新クラブ設立」を果たしたいと心に誓い、豊かな気持ちで家路に入りました。

2019-2020 東新部 フレッシュワイズセミナーのご案内

日時：2020年2月15日(土)13:30～16:30

会場：東京YMCA山手センター 101号室

およそ入会3年未満の新入会員を対象にしたセミナーです。ふるってご参加ください。

問合せ・申し込み：muranoshi@lily.ocn.com
東新部会員増強事業主査 村野繁(東京世田谷)

▼ クラブ・ブリテンより

「会員増強」への思い

神谷 幸男(東京西)



東京西クラブの積年の最大課題は、新人特に40～50歳代を入会させられなければ、わがクラブは、数年後には数人しか残っていないという危機感から、「会員増強」であるに拘わらず、一向に結果が現れない(現在、中高年でも元気に活躍できる時代ですが)。

言い訳は高齢者ばかりで、CS活動など社会貢献事業が行えない、入会を誘う相手は自分と同世代の高齢者ばかり、入会者の心を射止める魅力がクラブに見出せない、等々と自己防衛に明け暮れている始末。

新人を勧誘するにはクラブの魅力をアピールするのが一番で、一般的な魅力としては、社会奉仕ができること、交際範囲が広がること、社会的研鑽ができること、居場所ができること、などが挙げられる。しかし最大の魅力とは、「隣人愛とそれに基づく奉仕の実践を行う世界平和志向の国際団体に属すること」ではないだろうか。

しかしわが身の努力と押しの足りなさを反省しきりだが、一方WHO(ウオーキング・ホリデー・荻窪：※)を除いては、見える地域活動を行えないわがクラブにあっては、押しの迫力がイマイチであるばかりでなく、前記最大の魅力についての理解がなかなか得られないもどかしさもある。

今一度「Change! 2022 ニュース」を読み返してノウハウを吸収するなど、会員増強へのエネルギーを蓄積させたい。(東京西クラブ2019年12月号のブリテンより。※編集委員による)

高齢者クラブの憂鬱？

神谷さんの思いのように、高齢者クラブの皆さんの多くも同じ気持ちでありましょう。

しかし、神谷さん、40～50歳なんて高望みをしなくても60～70歳代で十分ですよ。

毎月のWHOという立派な事業をお手伝いしてくれる人ということで、皆さんがご自分の周りを見わたしてさがしましょう。SNSを通じての呼びかけもありですよ。

高齢者クラブ結構。力と知恵を集めれば道は必ずある。できる事業は必ずある。ポジティブに行きましょう。(編集委員 藤井寛敏)

▼ クラブ・ブリテンより

新年の夢 ～牛久にワイズを～

茨城YMCA総主事 宮田 康男（茨城）



歴史を積み重ね、2020年は茨城ワイズメンズクラブの発会式から15年になります。そして今、新しい年を迎えた私たちは、新しい目標を立てる時期かとも思います。特に今年は、「チャリティ・サイクリング」という画期的なプログラムが始

まるかもしれない、歴史的な年となるかも知れませんので、会長の抱負には目が離せません。

茨城YMCAも今年は認可保育所・牛久オリーブ保育園の開園が4月にあります。自前の建物がまた増えます。急激に大きくなり、正職員、専任講師、パートタイムのスタッフまで合わせると、100名を数えるようになりました。そこで、2024年の創立30周年に向けた中期計画も策定したいと考えています。

同時に、大きくなった牛久センターにも「茨城・牛久ワイズ」の誕生は...夢でしょうか？新年の夢の一端として、5年以内に茨城ワイズが子どものワイズを誕生させるなどの夢は、お屠蘇気分と思われそうですネ。最初の茨城ワイズメンズクラブを作ろう！の時も、夢物語のようでしたが実現し、その結果、チャリティゴルフやチャリティランなど多くのプログラムが生まれました。これらも茨城ワイズメンズの協力がなければ、実現しなかったものだったでしょう。（茨城クラブ2020年1月号ブリテンより）

茨城ワイズメンズクラブは2006年、茨城市在住の東京YMCA主事の本田真也氏と転任間もない宮田康男主事、鮎沢正和関東東部部長、鈴木健次ワイズ（両者とも東京ひがしクラブ）の指導の下に、関東東部8番目のクラブとして設立されたと言われています。それ以来、宮田さんはワイズメンとしても何かと茨城ワイズを支えてきました。近年、同YMCA、ワイズともに充実、発展の時期を迎えた機会をとらえての夢の発言だと思えます。

Change! 2022の関東東部エクステンション委員長である金丸満雄部長からも、内々に茨城方面での新クラブ設立の打診が行われているとも聞いております。

夢はすべてのスタートと言います。でき得れば3年後の2022年12月を目標に夢の実現に向けてスタートを切っていただければと願っております。

（編集委員 藤井寛敏）

▼ 新入会員からのメッセージ

▽ 後藤 雄一さんのメッセージ ▽

熱海クラブ 2019年7月入会



熱海ワイズメンズクラブに所属します後藤雄一と申します。先輩市議会議員の会派の方々の紹介を得まして入会させていただきました。

入会してから、毎月の例会にてクラブの熱海の様々な方々と沢山お会いすることができ、更に面識を広める事ができました。

この点につきましては正直、自身の世間的な面識が以前は狭かったことに痛感しました。しかしワイズメンズクラブに入会し面識が広がったことで、熱海での議員活動などで協調し合える部分の広がりができ、大変にありがたいと思えました。

入会の動機はワイズメンズクラブの「青少年健全育成に寄与する活動」に賛同し入会するものの、なかなか時間が作れず、去年は参加が出来ず、今現在に至ります。

私も少年時代後半から、ボーイスカウトでカブスカウトの面倒をみながら高校3年まで活動していたことを考えると、団体生活・人にやさしくすること・しっかり相手に挨拶ができること・大自然の広大さを感じること・備えを常に持つこと。大人になり、小さい時の思い出が一番大切になってくるものだと感じております。

今後は、このような参加できない現状を少しでも打開し、キャンプ、ドッチボール大会等の活動に参加できる様、熱海ワイズメンズクラブを通し参加してまいります。

▼ 新入会員をご紹介します

会員増強事業主任 札埜 慶一（熱海）

12月には、下記の方々が入会されました。（敬称略）

No.	入会者	(クラブ名)	紹介者
1.	加藤 淳	(もりおか)	濱塚 有史
2.	赤池 讓司	(甲府21)	野々垣 健五
3.	浅川 貴明	(甲府21)	佐藤 重良
4.	中村 吉孝	(東京武蔵野多摩)	渡辺 大輔
5.	竹野 裕之	(東京町田スマイリング)	木藪 美歩
6.	谷 佳太	(熱海)	鈴木 恵次

町田スマイリングクラブに新たな会員を迎えて

会長 為我井 輝忠（東京町田スマイリング）

去る12月18日（水）、クリスマス例会と共に新たに加わった竹野裕之氏の入会式が行われました。東新部の小川圭一部長を始め、近隣各クラブの多くの方々の出席を得て、皆様から祝福をいただきました。新たな出発となったことと思います。

近年、各地のワイズメンズクラブの高齢化と会員減少化が大きな問題となっていますが、そのような中で当クラブの事例は大きな成果と言ってもよいでしょう。

竹野氏は40代のサラリーマンで、東京都心で働いていて、何かと月一度の例会に出るのも時間的に大変な状況と想像しますが、持てる力を大いに発揮していただけるものと期待しています。私たちも協力し、会を更に盛り上げていきましょう。



【写真左から、太田東新部E委員長、村野会員増強事業主査、新入会の竹野さん、為我井会長、小川東新部部長】

▼ ワイズコメットからのメッセージ

AYCの全体感想

ワイズコメット じゅうどう 重堂 百恵（十勝）



この度、仙台で2019年7月17～21日の5日間にかけて行われた、AYC（Area Youth Convocation）に推薦いただいたことに、改めてお礼申し上げます。

さて、私たち Youth のメンバーは Kibotcha で5日間を過ごしました。Kibotcha という施設は、日本を支える子どもたちに「命の大切さを伝えたい」という思いから、防災を通じて命の大切さを伝える場として、小学校を活用、再生し、エンターテインメントと教育と防災

を融合させたそうです。

Youth のメンバーは、台湾と日本の2カ国から集まっており、全プログラムは英語で進行し、台湾の方との交流も英語で行われました。日本と台湾で言語も文化も違うけれども、一緒に親交を深めることができました。

プログラムの中で、気候変動やプラスチックのごみ問題、自然災害など、非常に身近でありながら、あまり考えることなく過ぎてしまっている環境問題について、改めて考えさせられました。そして考えた内容を班員とさらに深め、全体で発表することで、自分とは違った意見や、自分にはなかった視点を発見できて興味深かったです。

5日間にかけて行われたAYCの活動を通し、自分の中で感じたことがたくさんありました。たくさんの人との交流を通し、ほんの少しでも成長できたと思います。

最後になりますが、このような貴重な機会を皆様、どうもありがとうございました。

2019-2020 東日本区 Change! 2022

シンポジウム開催

日時：2020年2月1日（土）13:00～16:30

会場：東京 YMCA 社会体育・保育専門学校 2F

プログラム

1. 開会あいさつ・趣旨説明 栗本治郎
 2. あいさつ 山田敏明
 3. フェイスブック等 SNS の活用実践
 - ① 初歩メソッドについて 渡辺大輔
 - ② SNS 活用の入会例 札埜慶一
 4. 発題
 - ① アクションプラン 栗本治郎
 - ② 16名が36名へ、会員倍増 野々垣健五
 - ③ 新クラブ設立の動向 長尾昌男
 5. グループディスカッション
 6. Change! 2022 宣言
 7. まとめ・閉会あいさつ 板村哲也
- 終了後、YMCAホールで懇親会を開催(会費2000円)

問合せ・申し込み：大川貴久（熱海）まで

qxq1dsmk3@aods.jp

主催：東日本区 Change! 2022 推進委員会

共催：東日本区 EMC 事業委員会